

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜各務野高等学校

学校番号 13

【教務部】

I 自己評価

| | | | |
|---|--|--|---|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。 | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇教務部（教育課程・学習指導・情報発信） | | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・学習指導に関する満足度は、高い評価を得られているが、生徒の学習ニーズに寄り添った授業形態、指導内容等の改善及び、新学習指導要領に則した指導の在り方を模索し実践する必要がある。 | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ◇授業規律を徹底する。 ◇授業改善の推進に努める。 | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・職員会議、職員研修会、教科会議 等 | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | |
| (1) 本時の目標の明示と学習成果の検証 (2) 公開授業週間、研究授業の取組強化 | (1) 生徒による授業評価の実施と集計・分析結果 (2) 研究授業の回数とその内容 | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | |
| ・年度当初の職員会議で、授業改善と授業規律の確立をめざし、全職員の取組強化を図った。 ・公開授業週間や研究授業の趣旨を説明し、全校体制で取り組んでいる。 | ①生徒及び保護者対象アンケートの結果、授業評価の結果 ②研究授業の実施状況及び内容、授業評価の結果 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D | |
| 11 成果 ・課題 | ○教材のアプローチの仕方や動画、視覚的な教材の工夫などされたICT機器の活用やPowerPointでスライドを作成することなどが学習内容をより発展的し、学習の充実につながっている。 ▲変化する生徒・家庭に対し学校も柔軟に対応が求められる。今まで以上に生徒や保護者の教育ニーズの把握に努めるとともに、学校全体で対応することが必要である。 | | 総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・公開授業週間や研究授業のさらなる充実を図り、ICTを活用した授業についてのノウハウを学校全体で共有できるような環境づくりに努める。 ・授業評価にも引き続き全職員で取組み、授業改善、授業規律の確立に向け、より良い方策を探る。 ・「e-教務」「貸与タブレット端末」「MetaMoJi」「manaba」「自動採点システム」の普及により、ICTに関する業務量が増えているため、教務の人員増加または新たな分掌を設けるかなど検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策も含めて、保護者との連携を図る仕組みを生徒指導部・渉外部ともに考案していく。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

| |
|---|
| 【意見・要望・評価等】 |
| ・授業改善に取り組み成果が上がっているようで良い。ただ生徒アンケートによれば、先生方の教え方や説明が不十分であると感している生徒が24.3%あるのが今後の課題であると考えます。 ・コロナ禍で、教育目標の達成が困難なうえ、さらにきめ細かく配慮が求められる状況において、取組みや実践内容の評価が高いことがよかった。 ・ICTを活用した授業を充実させ、生徒の思考力・判断力・表現力を今以上に伸ばして頂けることを期待する。 |

【生徒指導部】

I 自己評価

| | | |
|--|---|-------------------------------|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇生徒指導部（教育相談） | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | (A:よくあてはまる B:ややあてはまる)回答の割合 | 【生徒%・保護者%】 |
| | ・モラルやマナーを身につけさせようと努めている。 | 83.3 ・ 78.5 |
| | ・いじめや差別を許さず、適切に対応している。 | 64.8 ・ 58.5 |
| | ・生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている。 | 73.0 ・ 72.4 |
| | ・生徒の困りごとや悩みごとを相談しやすい環境づくりに努めている。 | 66.5 ・ 61.8 |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇安全で安心できる学校環境を形成する。 ◇基本的な生活習慣の確立を図る。 ◇教育相談の充実を図る。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・生徒支援会議を定期実施し、情報共有および具体的指導、支援を継続して行う。 ・学年、分掌と連携を図り、組織的に指導する。 ・SCやSSWとの密な連携に努め、多角的な視点で対応する。 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| (1) 生徒支援会議の充実 (2) 教育相談体制の強化 (3) 基本的な生活習慣の定着（遅刻者数の減少） (4) 身だしなみ、制服の着こなし指導の充実 (5) 生徒主体の交通安全啓発活動、挨拶運動の充実 | (1) 年間6回程度実施 (2) 教育相談に関する職員研修を実施 (3) 遅刻者数の経年変化から実態を把握 (4) 定期的な身だしなみ指導と日常指導の徹底 (5) MSLを中心とした活動により他の模範となる活動の推進 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・生徒支援会議を年間で6回実施し、情報共有ならびに具体的支援など話し合うことができた。 ・SCによる教育相談研修を実施した。 ・定期的に身だしなみ指導を実施し、日常から生徒の着こなしに関わる意識を高める声掛けを実施した。 | ①生徒の情報が共有され、迅速に対応することができたか ②研修から得た知識や考え方を現場で活かすことができたか ③生徒自身が自他ともに認める身だしなみ、制服の着こなしができたか | A B C D A B C D A B C D |
| 11 成果課題 | ○コロナ禍での生活による心身の不調や不安を感じている生徒が多い中、生徒一人一人に寄り添う担任の支援により、その不安感を軽減できた生徒がたくさんいる。 ○定期的な「心のアンケート」（すぐメールで返信）を活用し、生徒の気持ちを把握でき、迅速に対応できた。 ▲「新型コロナウイルス感染予防のため」の欠席者が増加した。同じく、体調不良による遅刻者も増加した。 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | 総合評価 A B C D | |
| ・更なる生徒理解に努め、個別に支援・対応すべき事柄と、集団・組織として規則遵守を徹底する事柄を明確にし、ながら組織内共有を図る。 ・保護者との連携を図り、信頼関係を構築し、そのうえで家庭と学校が共通理解のもと指導にあたる。 ・学校ブランド、学校イメージを向上させる取り組みを実施する。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

| |
|--|
| 【意見・要望・評価等】 |
| ・アンケートの結果に生徒と保護者に乖離が見られる。学校と保護者との連携が課題である。 ・アンケート結果より最も低評価である「いじめや差別への対応」について、コロナによる差別の一つになり、その点に関しても配慮ができればと思う。 ・「心のアンケート」の活用により、生徒の心情を把握し対応できていることは素晴らしい。 ・「心のアンケート」で生徒一人一人の生徒に寄り添う的確な対応により、効果が上がっていることが素晴らしい。 ・定期的なメール配信やホームページでの情報発信など、熱心な取り組みのおかげで生徒だけでなく、保護者も安心することができた。 |

【進路指導部】

I 自己評価

| | | | |
|---|--|--|--|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送れるよう心身の健全な発達に努める。 | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇進路指導部 | | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・進路実現に向けて主体的に意思決定し、行動に移せる生徒が少ない。 ・就職先の選択において、専門高校としての学びに基づいた企業選択ができていない生徒が多くみられる。 ・指定校推薦での進学が中心だが、国立大学や難関私立大学を希望する生徒が増えてきた。 ・アンケートの結果より、生徒は「進路に関する情報を提供している」が82.2%、「希望する進路に適切な指導を行っている」が76.5%と高い評価であるが、保護者は、68.7%、69.8%とやや低い結果である。 | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇具体的な進路選択のために、専門高校としての特性を生かした進路指導体制の確立に向け、すべての教育活動でキャリア教育を推進する。 | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・全職員の理解のもと、進路指導の組織的な実施を図る。 ・各学年、各学科、各分掌長との連携を密にして協力体制を確立する。 | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | |
| (1) 全職員による進路指導の推進 (2) 外部講師による進路ガイダンスやインターンシップ等の参加による進路意識の向上 | (1) 就職試験、入学試験等の合否状況 (2) 生徒の感想やインターンシップへの参加者の取組み等の状況 | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | |
| ・具体的な進路指導（面接、小論文等）を組織として実施した。 ・外部講師によるガイダンスを開催し、進路情報の提供と進路意識の高揚に努めた。 | ① 合格率が上がったか、内定先、合格先の内容はどうか。 ② 生徒の進路意識が以前より高まったか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> | |
| 11 成果・課題 | ○生徒への進学・就職意識を高めるために、ガイダンスや職場体験、看護体験に積極的に参加する生徒が増えた。 ○指定校推薦に頼らず、公募制推薦や総合型選抜で難関学校に合格者を輩出することができた。（昨年度に続き、国立大学の合格者を出すことができた） ▲就職試験では、採用試験において、1割の生徒が不採用となった。 一次不採用者／就職試験受験者 10.3% ▲事務系・情報系を希望する生徒に対して求人数が少ないため、より多くの求人確保が急務である。 ▲基礎学力の向上と早期からの意識付けが課題である。 | | 総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・生徒の進路実現に対する学科、学年としての方針を明確にする。また、生徒の可能性を広げるために、より高い目標を掲げ、それを実現させるための戦略を打ち出し、組織的な進路指導の体制の構築と実践を行う。 ※ 就職：学科の学びを基にした職業選択を行う。 ※ 進学：今後3年間で、各学科1名以上の国公立大学への進学を輩出させる。 ・基礎学力や生徒の学習習慣の定着・向上を図れるよう、教務部、学科、学年、教科等による横断的な進路指導推進のための組織を構築する。 ・全職員が国公立大学に対応できる小論文指導が行えるように、職員のスキル向上のための研修会等を計画するなど、これまで以上の小論文指導の充実を図る。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・昨年度の滋賀大学に続き、大分大学（国立大学）合格は評価できる。
- ・国公立大学や難関私立大学への合格者を増やすために、早期からの進路の意識付け、教員のスキルアップ、普通教科における学力向上とともに、専門教科における進路を踏まえた専門性を身に付けるための指導の向上が課題である。
- ・コロナ渦を反映し、求人数の確保に苦労が多いことを改めて感じた。
- ・総合型選抜による合格者が増えてきていることは評価できる。

【ビジネス科】

I 自己評価

| | | |
|---|---|--|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ビジネス科 (学習指導・地域連携) | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・卒業時のアンケートによると、本校に入学して良かったと思う生徒 93.0%であった。その理由として「専門的な知識や技術が身に付けられた」「専門教科に関する資格が取得できた」の回答が多い。生徒は資格取得を通じて学習活動を充実させることができた。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇社会で信頼され実りある人生を送るために、商道德を大切にしたい心を養い、ビジネスマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを円滑に図れる人材を育成する。商業科目の基礎基本を定着させることで商業教育の土台をつくり、より高度な専門知識を習得できる授業を展開する。 ◇ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行う。地域が抱える問題を考察し、解決するための手段を考える力を育成する。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・ビジネス科の活動を充実させるために、ビジネス科会議を開き学科運営について協議を行う。 ・ビジネス科の基本方針を実現させるためにフィールド長会議を開き、フィールド独自の取組み及び学科運営について協議を行う。 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| (1) 小テストや成果物の提出状況で生徒の理解度を確認し、学習状況を把握した上で授業展開の方向性を考えている。 (2) 課題研究の授業において、地域に貢献できる活動をフィールドの特性や専門性を生かして行っている。 | (1) 知識・技術の定着を図る指標として検定試験を受検しその合格率をもって判断する。 (2) 課題研究発表会や3科合同発表会において、実践してきた活動を発表し、その発表内容の評価をもって判断する。 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| <p><学習指導・資格取得></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やITを活用した授業を展開した。さらに放課後等に個別に補習を行い、生徒の理解度を高めることに努めた。 <p><課題研究 地域連携活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドの専門性を生かし、地域と連携した実習を行い、活動内容を発表した。 <p><ICT機器の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習支援システムや、普段の授業においてデジタル教材を活用した学習指導を行い、資格取得につながるようにした。 | <p>①授業アンケートによる自己評価、検定取得状況</p> <p>②課題研究発表会・3科合同発表会における外部評価</p> <p>③ICT機器の活用状況</p> | <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> |
| 11 成果・課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○自宅学習期間によって授業進度の遅れが心配されたが、オンライン学習支援システムを活用して、予定通りの進度を保つことができ資格取得へつながった。 ○地域との連携活動では、9月の自宅学習期間があり一度止まってしまったが、その後の教育活動で巻き返すことができた。それぞれのフィールドが専門性を生かした実習を行うことができた。 ○デジタル機器を活用した授業を展開し、生徒の理解度を高めることができた。 ▲普通教科の学習内容を理解不十分だと感じている生徒が多い。進路の選考試験での学力試験に十分対応するためにも、生徒が積極的に普通教科の授業に取り組むよう動機づけする必要がある。 | <p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> |
| <p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度もオンライン学習支援システムを使用する授業が想定される。オンライン授業においても、分かりやすい授業を展開するために、使用するアプリの効果的な活用方法を考察する。 ・今年度実施した地域連携の活動を来年度も継続して行うことで、地域とのつながりをより強いものとする。地域から必要とされるビジネス科になる活動を行う。 ・普通科目の学力の必要性を生徒に説き、進路指導部と連携して生徒の学力向上につながる取り組みを行う。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・ビジネス科生徒の資格取得状況が分かる資料の添付があるとよい。
- ・今後も発展していくと思われるオンラインの活用を通じて、学習や地域連携を考えるとよい。
- ・ビジネス科の卒業時のアンケートに、「専門的知識や技術が身に付いた」「専門的教科に関する資格が取得できた」という内容から指導の充実を感じた。
- ・アンケート結果で「本校に入学して良かった」と回答する生徒の割合が高い結果が出ていた。教師が日頃より生徒一人一人と向き合い、専門的な知識や技術の習得など熱心に指導している結果だと思う。今後は広く情報発信をして、「岐阜各務野高校に入学したい」と思う中学生が増えることを期待している。

【情報科】

I 自己評価

| | | | |
|---|---|--|----------------------------|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。 | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇情報科（学習指導・地域連携） | | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・卒業時におけるアンケートで本校に入学して良かったと回答する生徒が69.3%→84.6%と大きく向上した。主な理由は専門的な知識や技術を学べた事や資格取得ができたことが主な理由であった。 これはカリキュラムを大幅に改変した効果と先進的な学科の取り組み及び教員が生徒に寄り添う指導を高めることができた結果と分析する。次年度以降も継続して指導を実施していきたい。 | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇STEAM教育の充実（県教育委員会研究指定スーパー・インクワイアリー・ハイスクール事業における探求学習） ◇地域連携による課題解決型学習を題材として、生徒の専門性と学習意欲を高める指導 ◇資格指導（CGクリエイター検定ベーシック、ITパスポート） ◇学習指導とつながる進学指導（4年制大学への進学指導） | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・地域と連携した授業連携機構 ・定期的な学科職員会議及びコラボレーションプラットフォーム（Microsoft Teamsなど）を活用した学科職員のオンライン連携機構 | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | |
| (1) 地域と連携した課題解決授業の実施 (2) 生徒の学習意欲向上を目指した実習内容の改変と精選 (3) 資格指導計画の大幅な見直し (4) 個に応じた進路相談及び進路指導の充実 | (1) 生徒アンケート及び作品成果物評価 (2) 資格取得状況と生徒たちの意識調査及び進学指導での利用率より判断する。 (3) 進学状況結果より判断する。 | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | |
| <p>【問題解決型連携学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査から問題検討まで考える工程を実践的に学習することができた。 <p>【実習内容の大幅な改変】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のプログラミング意欲の向上、メディア作品制作への喜びなど実践的な授業を実施した。 <p>【資格指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITパスポートの重点指導を実施 <p>【個に応じた進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の進路相談から、学科職員で連携した面接指導や作品制作指導を実施することができた。 | <p>①生徒が興味関心を持って学習に取り組むことができたか</p> <p>②外部評価及び資格取得状況</p> <p>③学習内容と連携した生徒の目指す進路希望及び進学実績状況</p> | <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> | |
| 11 成果・課題 | <p>○問題解決型地域連携学習では、実践的な学習に加え、生徒の興味関心を強く高めることができた。また、新しく導入して2年目となった実習及び教材は生徒からも学ぶ意欲が向上したとの声を多く聞くことができた。</p> <p>○BYODで導入しているiPadを効果的に活用することができた。本校の情報科の学びには有意義な物であり、親和性も高い。現在では生徒達にとって欠かすことのできない学習ツールとなっている。また、今年度はスマート専門高校の実現事業において、先進的な学びへの設備を整備することができた。</p> <p>▲1年生から進学への意識を高めさせ、継続的に将来の進路を意識させる必要が肝要である。また、学科として組織的に進学指導への取り組みを実施し、情報科としての進学先を確保していきたい。</p> | | <p>総合評価</p> <p>A B C D</p> |
| <p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して地域と連携した学習活動の充実を図る。学校内外での生徒の活躍の場を増やしていきたい。 ・情報科の未来を見据えた教育課程の大幅な改変（AI・クラウド・メディアデザイン）を継続して実施する。併せて進学指導の強化を図る。 | | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・現地調査、問題解決型の実践学習について評価する。
- ・資格の取得状況がわかると良い。
- ・オンライン化、ICT化に先行している。それに関連した資格取得ならびに教育カリキュラムの改革により生徒の満足度が大きく向上している点が素晴らしい。
- ・先進的な取り組みがよい。
- ・「本校に入学して良かった」と回答する生徒の割合が高い。日頃から教職員の先生方における、専門的な知識や技術の習得について熱心に指導いただいている結果である。今後も広く情報発信に努めていただき、「岐阜各務野高校に入学したい」と思う中学生が増えることに期待している。

【福祉科】

I 自己評価

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 学校教育目標 | (1) 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (2) 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 (3) 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。 | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇福祉科 (学習指導・地域連携) | | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業時のアンケートで、入学して「良かった」と回答した生徒が、88.6%と高く「専門的な知識が身に付いた」と答える生徒が最も多い。また、令和3年度入学生アンケート結果より本学科を選択した理由として、「専門的な知識・技術を身に付けたい」「資格を取得したい」が合わせて88.6%となり、高水準である。 このことから、専門的な学びに対して生徒の意識の高い。また、3年間を通して福祉に関して学びを深めることができています。 | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇各フィールドの専門的な学びの充実 (ICTの活用等) ◇資格取得 (介護福祉士国家試験、保育技術検定) | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド会議 (週1回) ・福祉科会議 (月1回) ・3学科主任会議 (月1回) | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | |
| (1) ICTを活用した効果的な学習環境づくり (2) 地域と連携した体験的な学習 (施設実習) (3) 介護福祉士国家試験、保育技術検定等合格に向けた授業及び補習形態の工夫 | (1) 生徒アンケート及び成果物評価 (2) 実習後の生徒アンケート及び各機関の評価 (3) 介護福祉士国家試験、保育技術検定1級合格率100% | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド、各教科における学習内容の検討 ・施設実習や実習報告会、保育技術発表会 ・介護福祉士国家試験対策は11月末から毎日7限目に実施。保育技術検定対策は通年を通して週に1回及び三者懇談中の午後に実施。 | ①生徒が意欲的に取り組むことができたか ②外部評価 (事業関係者、地域住民等) ③補習や行事の運営 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D | |
| 11 成果・課題 | ○介護福祉士国家試験では、10年連続全員合格している。保育技術検定においても高い合格率を残すことができ、継続して努力する姿勢を身に付けることができた。 ○各教科で積極的にICTを活用し、効果的な学習方法について検討することができた。 ▲新型コロナウイルス感染症対策として、中止となった行事も多くある。その中で行事を精選し、新学習指導要領に即した能力を育成するための工夫が必要である。 | | 総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に応じた地域資源の更なる活用 (交流活動、講習会、ボランティア活動) ・福祉を学ぶ魅力の情報発信 (ホームページの充実、中学生に向けてのPR活動の充実) | | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

| |
|--|
| 【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験連続合格は素晴らしい成果である。 ・新型コロナの影響で体験関連機会が難しい状況である。ICTを活用した工夫を引き続き考えてほしい。コロナが終息した後、積極的な交流を希望したい。 ・アンケート結果で「本校に入学して良かった」と回答する生徒の割合が高い結果が出ていたが、先生方が日頃より生徒一人一人と向き合い、専門的な知識や技術の取得など熱心に指導をいただいている結果であると実感している。 ・withコロナ、集わずに繋がる方法の探求が課題である。 ・福祉科の学びを中学生など世間へのアピール (高校で受験資格が習得できる) をし、「岐阜各務野高校に入学したい」と思う中学生が増えることを期待している。 |
|--|